

伝承遊びの経験および伝承に対する意識について（その1）

石原 喜代子
鈴木 恒一

I 目 的

「最近、子どもたちが伝承遊びで遊んでいる姿を見なくなった。」とよく言われている。その要因としては、『子どもの余暇時間の減少』、『テレビ視聴時間の増大やファミコンの普及』、『都市化による遊び場の減少』、『少子化』など様々な要因が考えられている。そしてこれらのほとんどは、子どもが生活している環境の変化が原因とする要因、つまり外面（環境）的要因である。これに対し、我々大人そして子どもも含めて伝承遊びをどうとらえているのか意識に関する要因、いわゆる内面（意識）的要因についてはあまり検討されていないのが現状ではないだろうか。

そこで我々は、特にこの内面（意識）的要因に注目し、伝承遊びの経験、そして伝承に対してどのような意識をもっているのか探求していくことを目的とする。

そして今回の研究は、まず間もなく保育の現場で子どもと直接関わるであろう保育者養成校の学生に対して伝承遊びに対する経験や意識について調査・分析を行った。

II 研究方法

1. 調査方法

調査は質問紙法により実施した。対象は保育専門学校の2年生213名である。

なお調査に使用したアンケート内容および各質問項目の集計を巻末資料1（表1～10）に示した。

2. 調査時期

1996年9月

3. 集計・分析の方法

HALBAU Ver.4 による集計およびクロス集計を用いて分析を行った。

なお資料1表1より、回答者の内、98%が女子であるため、全ての集計およびクロス集計は女子学生が回答したデータのみで行った。そのためデータ数は209となった。

また、回答した女子学生の年齢構成を資料1表2に示した。

Ⅲ 研究内容

研究内容は次のとおりである。

1. 女子学生の伝承遊びの経験度合いとその時期について
2. 女子学生が経験した屋外の伝承遊びとその伝承者について
3. 女子学生が経験した屋内の伝承遊びとその伝承者について
4. 女子学生の伝承遊びの伝承に対する意識について
5. 伝承遊びの経験度合いと伝承遊びの伝承に対する意識との関連について

Ⅳ 研究結果および考察

1. 女子学生の伝承遊びの経験度合いとその時期について

学生の伝承遊びの経験度合いは、資料1表3のとおりである。

この結果、学生の89%が伝承遊びで『よく遊んだ』経験を持っている。これに対し11%が『あまり遊ばなかった』、『遊ばなかった』という経験を持っている。また、『よく遊んだ』そして『あまり遊ばなかった』、つまり伝承遊びに触れた事のある学生は1名を除いてほぼ100%が経験している。

また、伝承遊びで遊んだ時期は、資料1表4のとおりである。

この結果、学生が子どもの頃の伝承遊びは、『幼児の頃』から始まり『小学校1～3年生の頃』にピークを迎え、その後減少し中学生の頃には遊ばなくなったようである。

このことは我々が行った研究である【お手玉遊びの教育的意味(その1)】で調査した、幼稚園に子どもが通園する母親の、お手玉遊びで遊んだ時期とほぼ一致している。

2. 女子学生が経験した屋外の伝承遊びとその伝承者について

学生が経験した屋外での伝承遊びは資料1表5のとおりである。

この結果から屋外で最も遊ばれた伝承遊びは、『ゴムとび』で65%の学生が経験しており、次いで『鬼ごっこ』で38%、そして『だるまさんが転んだ』を26%の学生が経験し

ている。

さらに、これらの伝承遊びの内、学生がよく遊んだ遊び上位10種類について遊ぶ時の『仲間』つまり単独で遊ぶのか。複数で遊ぶのか。そして、『物』つまり遊ぶ時に物を使うのか。使わないのか。さらには、『唄』つまり遊ぶ時に唄を歌うか。歌わないか。それぞれ分類したものが表11である。

表11

伝承遊び名	仲間		物		唄	
	単独	複数	使う	使わない	唄う	唄わない
ゴムとび		○	○			○
鬼ごっこ		○		○		○
だるまさんがころんだ		○		○		○
ポコペン		○		○	○	
かくれんぼ		○		○		○
缶けり		○		○		○
ドロジュン		○		○		○
高鬼		○		○		○
色ぼうや		○		○		○
花いちもんめ		○		○	○	
合計	0 (0.0)	10 (100.0)	1 (10.0)	9 (90.0)	2 (20.0)	8 (80.0)

※()内は○の数/遊びの数(10)%

この結果から『仲間』では全ての伝承遊びが複数の仲間により遊ばれる遊びであり、ほとんどの伝承遊びが『物』は使われていない。さらに『唄』は20%の伝承遊びにしか歌われない。

また、屋外の伝承遊びの伝承者については資料1表6のとおりである。

この結果から屋外の伝承遊びを教えてもらった人は、『友達』が最も多く66%の学生が教えてもらっている。次いで『近所のお姉さん』が19%となっている。

これらのことから、学生が子どもの頃遊んだ屋外の伝承遊びは、『ゴムとび』、そしてその他鬼遊びに含まれる遊びが多く見られ、これらの遊びは複数の『仲間』により遊ばれ、遊びの中で『物』や『唄』はほとんど使われていない。さらに、これらの屋外の伝承遊びの伝承者は『友達』が中心的役割を果たしていたと考えられる。

3. 女子学生が経験した屋内の伝承遊びとその伝承者について

学生が経験した屋内での伝承遊びは資料1表7のとおりである。

この結果から屋内で最も遊ばれた伝承遊びは、『あやとり』で57%の学生が経験してお

り、次いで『折り紙』、そして『ままごと』の39%、『おはじき』の27%、そして『人形遊び（着せかえ等）』、『お手玉』の順になっている。

さらに、これらの伝承遊びの内、学生がよく遊んだ遊び上位10種類について遊ぶ時の『仲間』つまり単独で遊ぶのか。複数で遊ぶのか。そして、『物』つまり遊ぶ時に物を使うのか。使わないのか。さらには、『唄』つまり遊ぶ時に唄を歌うか。歌わないか。それぞれ分類したものが表12である。なお、屋内の伝承遊びでは、上位8位で3種類の伝承遊びが同数だったため11種類となっている。

表12

伝承遊び名	仲 間		物		唄	
	単 独	複 数	使 う	使 わない	唄 う	唄 わない
あやとり	○	○	○			○
折り紙	○		○			○
ままごと		○	○			○
おはじき		○	○			○
人形遊び(着せ替え等)	○	○	○			○
お手玉	○	○	○		○	○
かるた		○	○			○
かくれんぼ		○		○		○
ゴムとび		○	○			○
ビー玉		○	○			○
ぬり絵	○		○			○
合 計	5 (45.5)	9 (81.8)	10 (90.9)	1 (9.1)	1 (9.1)	11 (100.0)

※ () 内は○の数/遊びの数 (11) %

この結果から『仲間』では単独でも複数でも遊ぶことができる伝承遊びが見られる。またほとんどの伝承遊びが複数の仲間により遊ばれ、単独で遊ばれるものも46%みられる。そして、ほとんどの伝承遊びが『物』を使っており、さらに『唄』は僅かしか歌われていない。

また、屋内の伝承遊びの伝承者については資料1表8のとおりである。

この結果から屋内の伝承遊びを教えてもらった人は、『母親』が最も多く学生の40%が教えてもらっている。次いで『友達』の23%、そして『祖母』の14%となっている。

これらのことから学生が子どもの頃遊んだ屋内の伝承遊びは、『あやとり』をはじめ女子になじみの深い遊びが上位を占めており、これらの遊びは複数の『仲間』により遊ばれるが単独でも遊べる伝承遊びがみられる。またほとんどの伝承遊びで『物』が使われており、『唄』は僅かしか歌われていない。

またこれらの伝承遊びの伝承者の役割は、『母親』を中心として、『友達』、そして『祖母』等が果たしていたと考えられる。このことは【お手玉遊びの教育的意味（その1）】で行った幼稚園に子どもが通園する母親の子どもの頃のお手玉遊びの伝承者についての調査においても『母親』が伝承の中心的役割を果たしており、これと一致した。

4. 女子学生の伝承遊びの伝承に対する意識について

学生の伝承遊びの伝承に対する意識を資料1表9、そしてその理由について資料1表10に示す。さらに資料1表9と表10とクロスさせたものが表13である。

この結果から86%の学生が伝承遊びを伝承したいと『思う』と答えており、その理由として最も多いのは、『伝承遊びの楽しさを伝えたい。』と答えた学生が34%、次いで『子どもの様々な成長・発達にとっても役立つ。』と答えた学生が11%となった。全体的に見てみても自分の経験からの楽しさや伝承遊びの特質である異年齢の子どもとの関わり、そして友達との関わりなどを通して子どもの成長・発達に役立つことが多く見られる。

これに対して『思わない』と答えた学生は僅か1%であったが、その理由としては、自分の経験から『子ども達も自然に伝承遊びで遊ぶようになるのではないか。』という考え方、そして『伝えた方がいいかもしれないが、社会がどんどん変化しているのです。』以上2点があげられている。

また、『わからない』と答えた学生は13%で、その理由としては自分の経験から『子ども達も自然に伝承遊びで遊ぶようになるのではないか。』という考え方が4%、次いで『特に伝えたいと思わない。子どもが興味を持たないようであればやらない。』が3%、そして『伝えた方がいいかもしれないが、社会がどんどん変化しているのです。』が2%などとなっている。

これらのことから、自分が経験した伝承遊びの楽しさや伝承遊びが子どもの成長・発達に役立つという考えなどから8割以上の学生が伝承遊びを子ども達に伝えていきたいと考えている。

表13

理 由	1. 思う	2. 思わない	3. わからない	合 計
1. 子どもの様々な成長・発達にとっても役立つ。	20 (10.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (10.5)
2. 楽しさを伝えたい。	64 (33.7)	0 (0.0)	3 (1.6)	67 (35.7)
3. 自分もそうだったが、子どもたちも自然に伝承遊びで遊ぶようになるのではないか。	0 (0.0)	1 (0.5)	8 (4.2)	9 (4.7)
4. 少しでも伝えたいと思うが、ある程度子どもたちで遊べばいいと思う。	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
5. 楽しいし、今まで伝わってきた日本の昔からある遊びである。	15 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (7.9)
6. 異年齢の子どもや友達とともに伝承遊びを通して様々なことを学ぶことができる。	13 (6.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (6.8)
7. とても楽しく、遊びを通して友達関係が豊かになる。	15 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (7.9)
8. 子どもが伝承遊びを知っていれば懐かしく思うし、一緒に遊ぶこともでき、親子の触れ合いの場になる。	6 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (3.2)
9. 祖母も母も自分も伝承遊びをして大きくなった。	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
10. 特に伝えたいと思わない。子どもが興味を持たないようであればやらない。	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (3.2)	6 (3.2)
11. みんなで楽しく遊べるし、物など使わないでどこでも簡単にできる遊びばかりである。	15 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (7.9)
12. 今の子どもはあまり外で遊ぶことがない。	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
13. 伝承遊びの本当の意味がわからない。	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
14. 子どもたちの遊びが広がる。	12 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (6.3)
15. 伝えた方がいいかもしれないが、社会がどんどん変化しているので。	0 (0.0)	1 (0.5)	4 (2.1)	5 (2.6)
16. 言偉材では、伝承遊びうる人数や場所がない。	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
17. 自分が多くの伝承遊びを知らない。	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
18. 親なら自分が遊んだ遊びを教えてあげたい。	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
合 計	164 (86.3)	2 (1.1)	24 (12.6)	190 (100.0)

※表内数字は実数、() 内は回数/回答者総数 (190名) %

5. 伝承遊びの経験度合いと伝承遊びの伝承に対する意識との関連について

学生の伝承遊びの経験度合いと伝承遊びの伝承に対する意識との関連について資料1表3と表9をクロスしたものが表12であり、そしてカイ2乗検定を行った。

この結果から、伝承遊びの経験度合いと伝承遊びの伝承に対する意識の間には、5%以下の水準で有意差が認められた。つまり子どもの頃、伝承遊びでよく遊んだ学生は、子どもに伝承遊びを伝えたいと思う傾向があるということである。

表14

	1. 思う	2. 思わない	3. わからない	合 計
1. よく遊んだ	157 (75.1)	3 (1.4)	26 (12.4)	186 (89.0)
2. あまり遊ばなかった	15 (7.2)	0 (0.0)	7 (3.3)	22 (10.5)
3. 遊ばなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
合 計	173 (82.3)	3 (1.4)	34 (16.3)	209 (100.0)

* P<0.05

V ま と め

今回の研究を通して、まず女子学生の子どもの頃の伝承遊びの実態は、『幼児の頃』から始まり『小学校1～3年生の頃』にピークを迎え、その後減少し中学生の頃には遊ばなくなったようである。屋外では『ゴムとび』、そしてその他鬼遊びに含まれる遊びが多く見られ、屋内では『あやとり』をはじめ女子になじみの深い遊びが上位を占めていた。

そしてこれらの遊びを『仲間』、『物』、『唄』により分類した。その結果、屋外の伝承遊びは複数の『仲間』によって遊ばれる。これは屋内の伝承遊びでも同様のことがいえるが、これらの中には単独でも遊べる伝承遊びもあり、その他単独で遊ぶ伝承遊びも僅かにみられた。そして屋外の伝承遊びはほとんどが『物』を使わずに遊ぶのに対し、屋内の伝承遊びはほとんどが『物』を使って遊ぶ。さらに『唄』は屋外、屋内共に僅かしか歌われおらず、これは、歌わなくても遊べる伝承遊びである。

またこれらの伝承者は、屋外の伝承遊びでは『友達』が中心的役割を果たしていたと考えられるのに対して、屋内の伝承遊びでは、『母親』を中心として、『友達』、そして『祖母』等が果たしていたと考えられ、屋内と屋外ではそれぞれ伝承者が異なる。

そしてこれらの伝承遊びは、女子学生のほぼ全員が経験しており、そしてよく遊んだ経験を持つ学生ほど、将来伝承遊びを子どもに伝えたいと思っている。

このことから内面（意識）的要因として考えられることは、子どもの頃の伝承遊びの経験が重要であり、その経験を通して感じることできた楽しさや伝承遊びの特質である異年齢の子どもとの関わり、そして友達との関わりなどを通して子どもの成長や発達に役立つということが伝承遊び、そして伝承へつながる重要な意味をもつのであると考える。

今後は、さらに伝承遊びの伝承に関する内面（意識）的要因について、現代の子どもから大人まで幅広く伝承遊びに対する経験や意識について調査、分析を行っていきたい。

《参考文献》

1. 一番ヶ瀬 康子他 「余暇生活論」 有斐閣 1996年
2. 石原 喜代子他 「お手玉遊びの教育的意味について（その1）」
柳城女子短期大学研究紀要 第15号 1994年

資料 1 伝承遊びの経験及び伝承に対する意識調査

Q 1 性別に○をつけて下さい。

表 1

性別	回答数 (%)	回答総数 213
1. 男	4 (1.9)	
2. 女	209 (98.1)	

Q 2 年齢を記入して下さい。

歳 (10月 1 日現在)

表 2

年齢	回答数 (%)	年齢	回答数 (%)	回答総数 209
19	104 (49.8)	23	1 (0.5)	
20	95 (45.5)	25	2 (1.0)	
21	2 (1.0)	26	1 (0.5)	
22	3 (1.4)	29	1 (0.5)	

以下の結果はすべて女子学生のデータによるものである。

Q 3 子どもの頃、伝承遊びでよく遊びましたか。該当する 1 個所に○をつけて下さい。

表 3

伝承遊びの経験	回答数 (%)	回答総数 209
1. よく遊んだ	186 (89.0)	
2. あまり遊ばなかった	22 (10.5)	
3. 遊ばなかった	1 (0.5)	

【Q 4～Q 8 については Q 3 で 1 と 2 に○をつけた方にお聞きします。】

Q 4 伝承遊びで遊んだのは主にいつごろですか。該当する 1 個所に○をつけて下さい。

表 4

伝承遊びで遊んだ時期	回答数 (%)	回答総数 208
1. 幼児の頃	9 (4.3)	
2. 小学校 1～3 年生の頃	155 (74.5)	
3. 小学校 4～6 年生の頃	43 (20.7)	
4. 中学生の頃	1 (0.5)	

Q 5 家の外ではどのような伝承遊びで遊びましたか。よく遊んだもの3種類の名前を書いて下さい。

表 5

伝承遊び名	回答数(%)	伝承遊び名	回答数(%)
ゴムとび	135 (64.9)	凧上げ	2 (1.0)
鬼ごっこ	78 (37.5)	羽根つき	2 (1.0)
だるまさんがころんだ	55 (26.4)	ままごと	2 (1.0)
ポコペン	50 (24.0)	あぶくたった	2 (1.0)
かくれんぼ	42 (20.2)	あやとり	1 (0.5)
缶けり	38 (18.3)	お手玉	1 (0.5)
ドロジュン	35 (16.8)	ろくむし	1 (0.5)
高鬼	32 (15.4)	てんか	1 (0.5)
色ぼうや	27 (13.0)	陣取り	1 (0.5)
花いちもんめ	19 (9.1)	さんばん	1 (0.5)
ケンパ(かかし等)	15 (7.2)	たすけ	1 (0.5)
じょりかくし	13 (6.3)	かごめかごめ	1 (0.5)
影踏み	9 (4.3)	石投げ	1 (0.5)
Sケン	9 (4.3)	めんこ	1 (0.5)
田んぼのた	7 (3.4)	ビー玉	1 (0.5)
縄跳び(郵便屋さん等)	5 (2.4)	馬乗り	1 (0.5)
竹馬	4 (1.9)	山くずし	1 (0.5)
毬つき(あんたがたどこさ)	3 (1.4)	石けり	1 (0.5)
靴飛ばし	2 (1.0)	ひっこし鬼	1 (0.5)
氷鬼	2 (1.0)	草遊び(冠作り)	1 (0.5)
メロン	2 (1.0)	缶ぽっくり	1 (0.5)

※()内の%は回答数/回答者総数(208名)

Q 6 Q 5の遊びは主に誰に教えてもらいましたか。該当する1個所に○をつけて下さい。

表 6

回答総数 201

教えてもらった人	回答数(%)	教えてもらった人	回答数(%)
1. 父親	1 (0.5)	6. 近所のお兄さん	9 (4.5)
2. 母親	0 (0.0)	7. 近所のお姉さん	38 (18.9)
3. 兄	6 (3.0)	8. 先生	3 (1.5)
4. 姉	10 (5.0)	9. 祖母	1 (0.5)
5. 友達	132 (55.7)	10. 保母	1 (0.5)

Q 7 家の中ではどのような伝承遊びで遊びましたか。よく遊んだもの 3 種類の名前を書いて下さい。

表 7

伝承遊び名	回答数 (%)	伝承遊び名	回答数 (%)
あやとり	119 (57.2)	こま	3 (1.4)
折り紙	82 (39.4)	双六	3 (1.4)
ままごと	82 (39.4)	花札	2 (1.0)
おはじき	57 (27.4)	チャンバラ	2 (1.0)
人形遊び (着せ替え等)	50 (24.0)	リリアン	2 (1.0)
お手玉	44 (21.2)	座ぶとん鬼ごっこ	1 (0.5)
かるた	29 (13.9)	宝さがし	1 (0.5)
かくれんぼ	28 (13.5)	将棋くずし	1 (0.5)
ゴムとび	9 (4.3)	どんぐりこままわし	1 (0.5)
ビー玉	9 (4.3)	将棋	1 (0.5)
ぬり絵	9 (4.3)	ハンカチ落とし	1 (0.5)
めんこ	6 (2.9)	しりとり	1 (0.5)
百人一首 (坊主めくり)	5 (2.4)	消しゴム落とし	1 (0.5)
けん玉	4 (1.9)	切り紙	1 (0.5)
牛乳の蓋によるめんこ	4 (1.9)	だるま落とし	1 (0.5)
すもう	3 (1.4)		

※ () 内の%は回答数/回答者総数 (208名)

Q 8 Q 7 の遊びは主に誰に教えてもらいましたか。該当する 1 個所に○をつけて下さい。

表 8

回答総数 199

教えてもらった人	回答数 (%)	教えてもらった人	回答数 (%)
1. 父親	4 (2.0)	7. 近所のお姉さん	17 (8.4)
2. 母親	80 (40.2)	8. 祖母	28 (13.9)
3. 兄	7 (3.5)	9. 祖父	1 (0.5)
4. 姉	13 (6.5)	10. 祖父母	2 (1.0)
5. 友達	46 (22.8)	11. 叔母	1 (0.5)
6. 近所のお兄さん	0 (0.0)		

【全員の方にお聞きします。】

Q9 あなたは伝承お遊びを子ども達に伝えたいと思いますか。該当する1個所に○をつけて下さい。

また、その理由も記入して下さい。

表9

伝承の意志	回答数(%)	回答総数 209
1. 思う	172 (82.3)	
2. 思わない	3 (1.4)	
3. わからない	34 (16.3)	

《理由》

表10

理 由	回答数(%)
1. 子どもの様々な成長・発達にとっても役立つ。	20 (10.5)
2. 楽しさを伝えたい。	67 (35.3)
3. 自分もそうだったが、子どもたちにも自然に伝承遊びで遊ぶようになるのではないか。	9 (4.7)
4. 少しでも伝えたいと思うが、ある程度子どもたちで遊べばいいと思う。	1 (0.5)
5. 楽しいし、今まで伝わってきた日本の昔からある遊びである。	15 (7.9)
6. 異年齢の子どもや友達とともに伝承遊びを通して様々なことを学ぶことができる。	13 (6.8)
7. とても楽しく、遊びを通して友達関係が豊かになる。	15 (7.9)
8. 子どもが伝承遊びを知っていれば懐かしく思うし、一緒に遊ぶこともでき親子の触れ合いの場になる。	13 (6.8)
9. 祖母も母も自分も伝承遊びをして大きくなった。	15 (7.9)
10. 特に伝えたいと思わない。子どもが興味を持たないようであればやらない。	6 (3.2)
11. みんなで楽しく遊べるし、物など使わないでどこでも簡単にできる遊びばかりである。	15 (7.9)
12. 今の子どもはあまり外で遊ぶことがない。	1 (0.5)
13. 伝承遊びの本当の意味がわからない。	1 (0.5)
14. 子どもたちの遊びが広がる。	12 (6.3)
15. 伝えた方がいいかもしれないが社会がどんどん変化しているのでわからない。	5 (2.6)
16. 現在では、伝承遊びをする人数や場所がない。	1 (0.5)
17. 自分が多くの伝承遊びを知らない。	1 (0.5)
18. 親なら自分が遊んだ遊びを教えてあげたい。	1 (0.5)